

与論島初記録のヘリトリオカガニ

藤田喜久

〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4 沖縄県立芸術大学

Abstract

Tuerkayana rotundum (Quoy & Gaimard, 1824) is recorded for the first time from Yoron Island, central Ryukyus, Japan, on the basis of the specimens collected from an anchialine cave and a rocky shore in the island. In the Kagoshima Prefecture, this species was previously known only from Okinoerabu Island. Therefore, this report is the second habitat record of *T. rotundum* from the prefecture.

はじめに

近年、著者(ら)によって与論島の洞窟環境における十脚目甲殻類相調査が実施され、洞窟性種(眼が退化傾向を示す種)の同島初記録が相次いでいる(藤田ほか, 2019; 藤田・鈴木, 2020; 藤田, 2022)。この調査の過程で、オカガニ科の一種であるヘリトリオカガニ *Tuerkayana rotundum* (Quoy & Gaimard, 1824) が採集された。ヘリトリオカガニは鹿児島県下では沖永良部島から報告があるのみで(吉郷ほか, 2005)、与論島における分布は今回が初記録となるため以下に報告する。

材料と方法

ヘリトリオカガニは、2022年3月14-16日に与論島の北西部に位置する洞窟内の水域(保護・保全上の観点から洞窟名と洞窟の存在地についての情報の公表は差し控える)と、2022年6月9日に同島供利の海岸にて採集された。洞窟内の水域では、魚肉ソーセージを誘引餌として収容したトラップを水深約1mの場所に設置して本種を採集した。また、供利の海岸では夜間に石灰岩岩礁

域を徘徊している本種個体を徒手にて採集した。

採集した個体は冷凍して研究室に持ち帰り、解凍後に写真撮影を行った後に70%エタノールにて保存した。また、デジタルノギスを用いて甲幅(CW)を計測した。なお、本研究で得られた標本は、すべて琉球大学博物館(風樹館, RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan)に収蔵されている。

結果と考察

Tuerkayana rotundum (Quoy & Gaimard, 1824)

ヘリトリオカガニ (図1)

調査標本 1雄(RUMF-ZC-6112, 甲長48.4 mm), 1雌(RUMF-ZC-6113, 甲幅22.0 mm) 2022年3月15日、与論島の洞窟地下水域、藤田喜久採集。1雄(RUMF-ZC-6114, 甲幅47.2 mm), 2022年6月9日、与論島供利の海岸、藤田喜久採集。

備考 今回得られた標本は、いずれの個体も甲の前側縁の縁取りが明瞭なことで、甲の後側縁に複数の明瞭かつ太い横条線を備えており、藤田(2009)が示した本種の特徴に良く一致していた。

ヘリトリオカガニは、これまでに国内では和歌山県の串本、小笠原諸島の父島と南島、奄美群島の沖永良部島、大東諸島の北大東島と南大東島、沖縄諸島の沖縄島と渡名喜島、慶良間諸島の慶留間島、宮古諸島の宮古島、伊良部島、多良間島、水納島、八重山諸島の石垣島、竹富島、黒島、鳩間島、波照間島、与那国島から記録がある(藤田

Fujita, Y. 2022. New distributional record of *Tuerkayana rotundum* (Quoy & Gaimard, 1824) (Decapoda: Brachyura: Gecarcinidae) from Yoron Island, central Ryukyus, Japan. *Nature of Kagoshima* 49: 49-51.

✉ YF: Okinawa Prefectural University of Arts, Syuri-Tounokura 1-4, Naha, Okinawa 903-8602, Japan (e-mail: fujitayo@okigei.ac.jp).

Received: 7 July 2022; published online: 7 July 2022; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_049/049-011.pdf

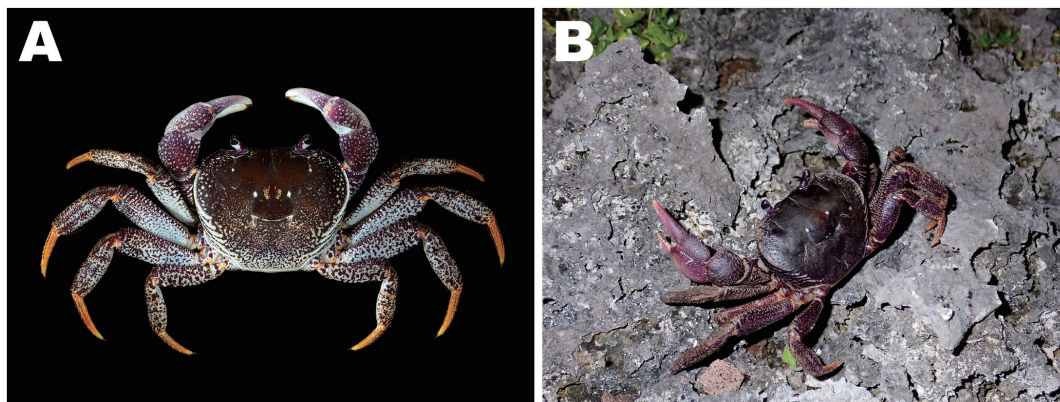


図1. 与論島から採集されたヘリトリオカガニ *Tuerkayana rotundum* (Quoy & Gaimard, 1824). A, 全体背面 (RUMF-ZC-6112:雄, 甲幅48.4 mm); B, 生態写真, 供利の岩礁海岸 (RUMF-ZC-6114:雄, 甲幅47.2 mm).

Fig. 1. *Tuerkayana rotundum* (Quoy & Gaimard, 1824) collected from Yoron Island, central Ryukyus, southwestern Japan. A, entire animal, dorsal view (RUMF-ZC-6112: male, CW 48.4 mm); B, in situ photograph, rocky shore at Tomori coast (RUMF-ZC-6114: female, CW 47.2 mm).

ほか, 2020). 従って, 本研究は標本を基にしたヘリトリオカガニの与論島からの初記録報告となる。また, 鹿児島県における本種の生息地としては, 沖永良部島のみが知られていたため(吉郷ほか, 2005), 与論島は鹿児島県下における本種の2島目の分布地となる。

今回得られた標本は, 海岸の石灰岩岩礁域および洞窟地下水環境から採集された。本種は, 海岸付近の岩礁域や飛沫転石帯などに生息しているが, 小型個体は地下水環境から良く見つかることが知られている(藤田, 2009, 2017a; 小林, 2018; 藤田ほか, 2020)。過去の研究で地下水域から記録された本種の最大個体の記録は甲幅30.7 mmであったが(藤田ほか, 2020), 本研究で採集された標本(RUMF-ZC-6112)はそれを上回る甲幅48.4 mmであった。これほど大型の個体が本研究で採集されるまで常時水中で生活していたかどうかは不明であるが, 十分に成長してもなお地下水域を利用していることを示す興味深い事例である。

近年, 本種の生息環境(岩礁海岸, 飛沫転石帯, 地下水域など)が明らかになるにつれ, 沖縄県では本種の新産地記録が増加した(例えば, 小林, 2018; 藤田ほか, 2020)。今後, 鹿児島県にて生息状況調査を進めることで, さらに産地記録が増加することが予想される。一方, 本種の生息環境は, 近年の開発等の影響を受けて縮小・消失しつ

つあり(藤田, 2009, 2018), 環境省レッドリストおよび沖縄県レッドデータブックにて共に「準絶滅危惧(NT)」と評価されている(藤田, 2017b; 環境省, 2020)。現在, 本種は鹿児島県のレッドリスト(レッドデータブック)には掲載されていないため(鈴木, 2016), 同県における本種の希少性について再評価するとともに本種の保護・保全措置を検討することが求められる。

謝辞

本研究の野外調査を実施するにあたり, 与論郷土研究会会長の麓才良氏にご協力いただいた。また, 本研究の実施および本報告の取りまとめには, 独立行政法人日本学術振興会の令和2年度科学研究費助成事業(基盤研究B: 課題番号20H03313: 研究代表藤田喜久)による支援を受けた。以上の関係者および関係機関に感謝する。

引用文献

- 藤田喜久, 2009. 宮古島のオカガニ類. 宮古島市総合博物館紀要, 13: 53-70.
- 藤田喜久, 2017a. 先島諸島における希少オカガニ類4種の分布記録. Fauna Ryukyuan, 36: 19-26.
- 藤田喜久, 2017b. ヘリトリオカガニ. Pp. 335-336. 沖縄県文化環境部自然保護課(編), 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)レッドデータおきなわ. 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇市.
- 藤田喜久, 2018. エビ・カニ類の生息場所から見た沖縄の海自然环境. Pp. 85-103. 「開学30周年記念論集」編集委員会(編), 芸術論の現在 沖縄県立芸術大学開学

- 30周年記念論集. 沖縄県立芸術大学, 那覇市.
- 藤田喜久, 2022. 与論島初記録のオハゲロテッポウエビ. *Nature of Kagoshima*, 48: 177-179.
- 藤田喜久・鈴木廣志, 2020. 与論島のアンキアライン洞窟から採集されたドウクツベンケイガニ *Karstarma boholano* (Ng, 2002) (十脚目: 短尾下目: ベンケイガニ科) の記録. *Nature of Kagoshima*, 53: 11-14.
- 藤田喜久・上野大輔・鈴木廣志・渡久地 健, 2019. 琉球列島与論島における地下水性ヌマエビ類3種の記録. *Cancer*, 28: 33-36.
- 藤田喜久・佐伯智史・瀬戸文久・福島 新, 2020. 八重山諸島鳩間島の洞窟およびアンキアライン環境から採集された十脚目甲殻類3種の記録. *Fauna Ryukyuna*, 53: 11-14.
- 環境省, 2020. 【その他無脊椎動物】環境省レッドリスト. 2020. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年7月4日閲覧)
- 小林大純, 2018. 沖縄島の地下水域から得られたヘリトリオカガニ. *Fauna Ryukyuna*, 42: 1-4.
- 鈴木廣志, 2016. 汽水・淡水産十脚甲殻類. Pp. 333-334. 鹿児島県環境林務部自然保護課 (編), 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編 一 鹿児島県レッドデータブック2016—. 一般財団法人鹿児島県環境技術協会, 鹿児島市.
- 吉郷英範・田村常雄・巖 道治・島田展人, 2005. 沖永良部島 (琉球列島・奄美諸島) の洞穴で確認された動物. 比和科学博物館研究報告, 44: 37-59.